

「自由」の中で自ら鍛える 自己実現のための英語力とは



ロンドン大学大学院修士課程学位授与式



ウガンダ首都カンパラ市政府の職員の方々とのミーティング



バンコクUN Womenにおいて、タイ、イギリス、アメリカ、韓国、スウェーデン、香港出身の同僚とのプロジェクトのディスカッション後の様子

勝負できるのです。 — これから英語を



平岡塾に中1〜高3まで在籍

伊藤里奈 (いとうりな) 2015年に東京外国語大学を卒業後、外資系金融機関にて勤務。2018年にロンドン大学大学院 (University College London) で都市開発管理計画修士号取得。在学中ウガンダの首都カンパラにてスラム街に関わるリサーチに従事。その後バンコクのUN Women (国連女性機関) において防災・気候変動の政策におけるジェンダー平等推進プロジェクトに参画。現在シエラレオネの首都フリータウンの防災計画の策定と強靱(レジリエント)なインフラ整備プロジェクトに従事。

の活動が現在の自分に直結していると思います。 — 大学卒業後、すぐに国際協力の仕事に就いたのでしょ

始めたのでしょうか。母の強い勧めで、中1の春からです。埼玉県にある女子中高一貫校に通うことになったの

通の中高生が読まないような難しい英文もたくさん読みました。語根や接辞も詳しく教えら

留学です。タスマニアに1カ月間ホームステイしたのですが、平岡塾で英語を学んですでに3

学んでいく生徒たち、それを支える保護者へのメッセージをお願いします。平岡塾で学ぶ英語は、大学受験のその先の、英語で生きていくための力です。



日本のODAによる防災インフラ整備プロジェクトのローンチの様子。フリータウン市長(ピンクのドレスの女性です)、利益コミュニティの方々とともに

大学受験のその先も ゆるぎない「英語力」で 世界舞台に活躍を

西アフリカに位置するシエラレオネ共和国は人口約765万人の、鉱業と農業が盛んな国。在留日本人は20人に満たないが、そのうちの1人が国連プロジェクトサ

シエラレオネの首都で 洪水に強い街づくり

— 現在、西アフリカのシエラレオネで国連職員として活動していますね。

首都のフリータウンで、現地政府の人たちと共に、洪水に強い街づくりのための都市開発プロジェクトを進めています。

— 洪水で900人以上の死者・行方不明者を出しました。いま、私たちに求められているのは、洪水被害に遭いにくい地域を選び、そこに災害に強い住宅地を建設すること。

— シエラレオネはどんな国なのでしょうか。大西洋に面していて、山も間近にあり、自然豊かな美しい国

です。一方、国の経済的・社会的豊かさを測る指数

— 19年は排水溝などインフラの清掃キャンペーンを展開。地域の人たちの協力を得て、洪水による死者をゼロに抑えることができました。

— 国際協力の仕事に就きたいと思ったきっかけは何だったのですか。

転機は海外ボランティア「活躍」のため大学院へ

— 200人近くが犠牲になったこと。そこで、災害に強い家づくりについて真剣に考えるようになりました。



シエラレオネの他の国連機関の職員とともに参加したUN Dayイベント